

三池にまなぶ関東ブ
ロック交流会の報告

本所伊藤勇

八月二日から四日まで篠根のキャンプ場で行なわれた第十二回まなぶ読者大会。四日に渋谷公会堂での労働大学二十周年記念集会に招待をうけ、参加した組合員六名主婦会員六名は、前後して九日まなぶの労働組合づくりのたたかいが力強く前進しているという強い印象をうけたことです。

いくつかの報告を列挙しますと
全通・埼玉県
節約運動が大々的に行なわれ、

広がった三池の火

十分間集会などが活発に行なわれている。職場全体の健康調査を行なつたら、百人に二十八人の割合で腰痛症や胃腸病を持つ人が明らかになつた。また、工場で肺機能をおかす鉄粉塵問題に対して、従来、手ぬぐい等を口に巻いて作業していたのを、職場要求を出してマスクをどつた。しかし、苦しくて何人かつけない人がいる。マスクをとつただけでは何も解決しないことが明らかで、その先の闘い

京成電鉄では、するどい生命を守る職場闘争が展開されている。電気関係の職場で昨年、感電墜落事故で一人の仲間が殺され、その後、危険箇所を摘発運動にとりくんだ。当然、そのことに對する巻き返しの攻撃が加えられてきたが会社のいう「安全」が生産を上げるための「安全」であることが全体で確認されたし、この安全闘争の中でまなぶの仲間ができ、学習会が定着した。

分裂した「闘争至上主義」や「製品が売れなくなる」と、現在一時帰休の攻撃が加えられ、それを拒否している第一組合員には草むしり等をさせている。

第一組合三百名、第二組合三百名の中で、三池と同じような組織攻撃をうけながら月刊紙を出し、市会議員一名を当選させるなど、がんばっている。

×

そのほか、多くの仲間との交流

命を守る闘い、職場に定着

がまだまだ起せないでいる。

チッソ電子化学・千葉県（紙面の都合で、相当部割愛しました。おわびします）
四十七年に合化加盟をめぐって

資本の横暴許すな

朝日鉦支援スト中止

去月三十一日予定されていた朝日炭鉱労組の「閉山反対闘争」支援ストライキは、一歩前進した会社回答がでたため中止となった。くわしい情報についてはまだわからぬが、①現炭鉱はひとまず閉山、全員解雇するが、そのまま新坑の方に移す。②こじれている

期末手当については今後話し合う。③新坑に移す場合、従業員の労働条件についても、今後話し合っていくべきである——などの骨子が伝えられている。

それにしても資本側が今後どうでてくるか、十分警戒しなければなるまいが、同鉱の問題について

閉山攻撃がかかれています。
もうけが少いからと勝手に閉山し、労働者の言切りを強行しようとしています。
国内の唯一の石炭を切りすて、良い所だけを掘るといふ横暴は許すべし」

C.O.・遺族に関する要求

すでに提出しているCO患者・遺族に関する要求は、近く三井鉱山との間で団体交渉を開始することになった。(本紙一面記事参照のこと)

これらの要求は、すでに早くその抜すい本紙で伝えたが、いよいよ交渉開始となるこの際、改めてその全要求を紹介し、闘いを強めることに役立てることにした。

要求項目

遺族関係

(1)遺族に対し、インフレ手当四万円支給すること。

(2)待機手当の現行二万五千円を待機手当相当額を支給すること。

(3)池縫製 勤務者の生活扶助手当五百円を、鉱業所直轄従業員との費用を含め、会社の責任で行なうこと。

(4)面工場（荒尾テノニットと三池縫製）

(5)遺族の健康管理について、貴

(6)福利厚生を取り扱いを、在籍

者と同様にする。こと。

(7) 両工場の労働条件を、早急に改善する、よう責任をもつ。こと。

(8) 盆と暮れの見舞金、現行八千円を五万円にし、支給すること。

(9) 家族手当、現行五百円を二千円とし、支給条件の十八歳までを在学中までとし、六十歳以上の扶養家族にも適用すること。

(10) 両工場に勤務する遺族に対し、三井鉱山同様の住宅手当を支給すること。

CO患者関係

(1) 長期補償給付者、および現場復帰者については、停年まで解雇、および差別取り扱いをしないこと。

(2) 会社見舞金を、退職者を含めて、入・通院者に一律月に三万円支給すること。

(3) 付添家族の給食費を、朝食二百五十円、中・夕食各四百円とする。こと。

(4) 長期補償給付者、および経過観察者に対し、一日当たり千四百円を別途支給すること。

(5) 職場復帰のCO被災者、造成職場・固定職場復帰者)に、生活救済のため、特別一時金五万円を支給のこと。

(6) CO被災者の精密検査を一資に実施し、休業を必要とする者、および休業中の者に対し、CO休業としての補償をすること。

(7) 万田訓練所入所者の訓練をさらに一年延長し、会社の責任で実施すること。

また訓練手当については、四月一日以降、二日当たり千四百円増額のこと。

(8) CO患者の死亡は、すべて公傷扱いとすること。

(9) 退職CO被災者の権利厚生を取り扱いは、在籍者と同様とする。こと。

審査を行なつた。

機関紙の部は別として、職場新聞の部では何といつても日刊紙活動の労苦が高い評価を受け、一位ほかすらり入選したことは十分うなずけた。

審査後各審査員は腹蔵のない意見をだし合つたが、参考のために紹介すればほぼ次の通りだった。

審査員の意見

——とにかく、職場新聞がこれほど急激によえていくことは、労働運動を、真に下から建設しよう

—したがって審査もより正しく、よきびしく行なう必要があり、今後は審査に当たる各員がいちもって全参加紙に目を通す必要があり、それでこそ新聞づくりの

豆ニユース

香川県知事選勝つ。角サンの売り物、本州四国架橋より早く革新の大橋、四国へ伸びる。

× / × ×

古都鎌倉でも革新市長、大

以上のことは、三池労組の職
新聞活動者としても、改めて考
るべき問題を提起しているのだ
なかるうか。(C)の項小崎)

差で再選。神サマも仏サマも
緑を守る正木さんを選びまし
た。

× × ×

ガス、交通料金、石油製品
そして米。値上げ台風荒れる
秋。アキればたよ、内閣無
策。

熊本県
総評

機関紙コンクール開催

みいけ一位、交流三位

広がる『日刊紙』活動

去月二十四日、熊本県総評が毎年行なっている「機関紙・職場新聞コンクール」の審査があつた。六回めで、三池労組からは機関紙「みいけ」と職場新聞の「やまなり」（三川指導部五分会）など二十九紙（地域や退職協などの新聞も含む）が参加、機関紙の部で「みいけ」が昨年にひきつづき一位に、職場新聞の部で「交流」（宮浦指導部電気分会新聞）が三位に入選。

こんどの新聞コンクールに参加したのは、「みいけ」のような組合機関紙（活版）が七点、職場新聞（ほとんどガリ版）が七十一点、雑誌型が二点だった。

なかでも職場新聞の参加紙が、

審査には、熊本日々新聞文化部

昨年の四十点にくらべ三十一点もふえていることにおどろかされたが、そのなかに何年もだしつづけられていた日刊紙の十一点が注目

が集まったのは当然だったろう。

という労働者の意識の高まりをまわしてゐるものとして、注目すべきである。

——（右と関連するが）職場新聞の広がりは、教宣活動が職場から強まりはじめている証拠でもある。

白のものが目についた。月にた
 た二回だす新聞である以上、職
 にはもっともと伝えなければら
 ないことがたくさんあるはず
 である。
 春闘期間中に発行された
 場新聞で、運動会の記事ばかり
 ものがあったが、もっと情勢に
 ツチしたものであってほしい。
 退職者の組合（三池の例）
 の新聞が、初めて参加している
 これは、老人問題・令青年問題
 非常に重要視されているときだ
 に、注目にあたっている。こんな
 聞こそ、積極的に育てて行くべ
 だ。
 ほは以上につきていた。
 なお表彰は、同県総会大会の
 で行なわれ、入賞紙は会場に展

[illegible]

熊本県総評新聞コンクールに、
1位に入選した本紙。

勞苦も体得できぬと思ふ。

——横書きの職場新聞が二つ目についたが、やっぱりタチ書のものとはべ読みづらかった。

——またまた、荒っぽい新聞多数目についた。なかには、ビヤラ新苦やらわからぬものがあったが、もっといいねいにくるきである。

——とかく機関紙にありがたな、上から下に向けて流す式の陋をもった職場新聞が少くなつた。この欠陥は、一日も早く克されるべきだ。

——月一回発行、しかも洋紙